



関西リハビリテーション
病院

下村 恭平

KYOHEI SHIMOMURA

2023年4月より兵庫医科大学リハビリテーション科に入局させていただきました、下村恭平と申します。滋賀医科大学を卒業後、神戸市内の病院で初期研修を修了いたしました。患者さんの疾患だけでなく、生活を含めてサポートしたいと思い、リハビリテーション科を志望いたしました。まだまだ知識も経験も少なく、至らない点も多いと思いますが、一生懸命勉強し成長して、日々の診療に活かしていきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



洛西ミズズ病院

山元 拓磨

TAKUMA YAMAMOTO

2023年4月より兵庫医科大学リハビリテーション医学講座に入局しました、山元拓磨と申します。滋賀医科大学を卒業し、京都市立病院で2年間初期研修をさせていただきました。研修中、患者さんが疾患を乗り越えて生活に帰っていく過程でのリハビリテーションの重要性を感じ、リハビリテーション科を志望しました。患者さんに寄り添って、疾患だけでなく生活や背景まで総合的に診ることのできる医師になりたいと考えています。至らぬ点も多々あるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



淀川キリスト教病院

上地 浩史

HIROSHI KAMIJI

皆様はじめまして。生まれ育ちは徳島で、高校卒業後に神戸大学発達科学部に入学しましたが、再受験で宮崎大学医学部に入り直し、三重県での2年間の初期研修を経て、この4月から入局させていただきました上地浩史と申します。元々は内科志望でしたが、初期研修で誤嚥性肺炎や尿路感染症などで入退院を繰り返しつつ、徐々にADLが低下していき弱っていく患者さんの姿を見て、内科管理での治療の限界とリハビリの重要性を痛感しました。今後は食事や運動などの生活指導から始まり、一般的な内科治療やリハビリ管理までできる医師になりたいと考えております。至らぬ点が多々あるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



みどりヶ丘病院

中川 真一

SHINICHI NAKAGAWA

2023年4月より入局いたしました中川真一と申します。10年近く大阪大学医学部 整形外科医局員として診療、研究に従事してまいりました。その中で、整形外科 術後における患者様に対するリハビリテーションの意義の重要性について常に認識しておりました。運動器、神経疾患、脳血管障害等、幅広くリハビリの知識を得ることで患者様の長期的生活の質向上に寄与できるのではないかと考え、このたびリハビリテーション科で研鑽を積ませていただくこととなりました。リハビリテーションに従事していく医師として、知識・経験に浅く皆様にご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



兵庫医科大学病院

松波 諒樹

MASAKI MATSUNAMI

2023年4月より兵庫医科大学病院リハビリテーション科に入局させていただきました、松波諒樹と申します。兵庫医科大学を卒業し、初期研修は沖縄県立北部病院と医誠会病院で行いました。幼少のころからリハビリ関連職の方と接する機会が多く、以前よりリハビリには興味がありました。初期研修の中でリハビリが疼痛・精神面などさまざまな部分で好影響を与えられる分野だと実感し、リハビリテーション科を志望しました。至らない点が多々あると思いますがご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



兵庫医科大学病院

岡 祐樹

YUKI OKA

はじめまして。2023年4月より兵庫医科大学リハビリテーション科に入局させていただきました、岡佑樹と申します。滋賀医科大学を卒業後、初期研修は神戸市立西神戸医療センターで行わせていただきました。急性期病院を退院した後の患者さんがどのような転機をたどり自宅に復帰されるのかに興味があり、リハビリテーション科を専攻させていただきました。至らない点が多々あると存じますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



兵庫医科大学病院

喜多尾 衣莉

ERI KITAO

2023年4月より兵庫医科大学リハビリテーション医学講座に入局させていただきました、喜多尾衣莉と申します。兵庫医科大学を卒業し、初期研修も兵庫医科大学病院で修了しました。初期研修2年目時ローテートさせていただき、患者さんのQOLに対し多角的にアプローチすることのできるリハビリテーション治療に興味を抱き、このたび入局を志望いたしました。至らない点も多々ございますが、日々精進してまいります。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



兵庫医科大学病院
ささやま医療センター

西林 亨

TORU NISHIBAYASHI

本年度より兵庫医科大学リハビリテーション科に入局させていただきました。西林と申します。高知大学を卒業後、市立加西病院で初期研修を修了しました。加西では高齢の患者様を診療する機会が多くあり、入院中にADLが低下していく方もいました。そこでADLに直接介入できるリハビリテーション科に興味を持ち、よりよいリハビリテーションを少しでも多くの患者様に提供できればという思いで入局させていただきました。ご迷惑をおかけしますが、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



西宮協立
リハビリテーション病院

福原 涼介

RYOSUKE FUKUHARA

今年度より入局いたしました福原涼介と申します。私は神戸市の高校を卒業後、和歌山県立医科大学を経て、岡山で初期研修を修了いたしました。急性期治療に目処がついても、自宅への帰宅が困難な患者さんにどういったアプローチができるのかということを考えを巡らせていたところからリハビリテーション医学、リハ科医への道を志しました。若輩者ではございますが、皆様のお役に立てるよう一所懸命精進いたしますので、どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

CRASEED NEWS

発行：NPO法人リハビリテーション医療推進機構CRASEED／年3回発行／第53号(2023年6月1日発行)
〒560-0054 大阪府豊中市桜の町3-11-1 関西リハビリテーション病院内 TEL:06-6857-9640 <http://craseed.org>



No.53

CRASEED

オンラインセミナー

開催報告



脳卒中装具療法セミナー ～症例から学ぶ臨床アプローチ～

2023年2月4日開催の「脳卒中装具療法セミナー ～症例から学ぶ臨床アプローチ～」に参加させていただきました。

脳神経内科医として急性期病院に勤務していた頃は、脳卒中患者様を受け持った際、二次予防のための血圧や血糖などの管理、合併症への治療などに目が行きがちとなっており、装具に対する意識はほとんどありませんでした。そのため、リハビリテーション科へ転科し、実際に担当患者様に装具を処方させていただくようになって、装具の選択肢の多さに驚くとともに、その奥深さや難しさを実感しております。

今回のセミナーでは、脳卒中発症後の中枢神経再組織化のステージ、歩行運動学や装具療法が歩行に及ぼす効果、予後予測など、多数のデータが提示されておりました。さらに、ご講演くださった先生方が、実際に経験された患者様の装具の処方や注意障害・半側空間無視に対する対策などについて、動画を交えて

分かりやすく具体的にご解説いただきました。現在は大学病院勤務のため、治療用装具を処方する機会の方が多いですが、ご自宅に退院後、痙縮による疼痛や皮膚トラブルで来院される方や新規に機能代償用装具の処方を希望される方もおられ、今後の参考にさせていただこうと考えております。

まだまだ経験不足ではございますが、いずれは「この装具のお陰で歩きやすくなった」と、患者様に評価していただけるように、知識の整理を行いつつ、患者様の病歴・背景を把握するための問診力、画像の正確な読影力、身体の状態を評価するための診察能力、問題点を整理するためのアセスメント力、装具療法の有効性を患者様やご家族にお伝えして、ご納得いただくための話術を向上させるべく、精進を重ねていきたいと思っております。この度はこのような機会をお与えくださり、誠にありがとうございました。

西宮協立リハビリテーション病院 竹内 由起

2023年2月4日、CRASEEDセミナー「脳卒中装具療法セミナー」に参加しました。脳卒中の下肢装具療法について、先行研究の紹介から日々の臨床で使える具体的なTIPSまで、幅広く学ぶことができました。専攻医の3年間で、急性期、回復期、生活期の各フェーズにおける下肢装具療法の臨床を経験しましたが、まだまだ理解しきれていない内容も多く、知識や考え方を改めて整理することができました。特に本セミナーでは、下肢装具を用いた歩行練習の様子を動画で見る機会が多く、教科書で学ぶだけではイメージのつきにくい部分の理解が深まりました。

現在勤務している西宮協立脳神経外科病院は、「一次脳卒中センターコア」に認定されており、脳卒中患者のリハビリテーション診療に当たる機会が多くあります。重度の片麻痺患者に対して、訓練室の備品の長下肢装具を用いた歩行訓練を早期から開始しています。患者の中には注意障害など高次脳機能障害を合併している方もいらっしゃいます。今回のセミナーで、そうした患

者への対処法(訓練環境の調整)を学ぶことができ、今後の臨床に活かしたいと思えました。

当院では、装具外来や併設されているデイケアの利用者の診療を通して生活期の装具療法にも携わる機会があります。当事者の活動度や装具の使用感によって、装具の調整が必要な場合があります。本セミナーでは、本人と家族の意見を伺いながら、客観的な評価も合わせて適切な装具を検討した事例の紹介があり、日々の診療でも実践していきたいと思っております。

リハビリテーション科医として脳卒中患者の診療に当たる機会は多く、下肢装具療法を用いたリハビリテーションの臨床経験を積み、障害のある方の生活や活動をサポートしていきたいと改めて感じました。最後に、下肢装具療法について基礎から臨床応用まで系統的に学びたいリハビリテーション専門職の方に、本セミナー受講をぜひ勧めたいと思っております。

西宮協立脳神経外科病院 望月 碧



西日本公式第23回ADL評価法FIM講習会

今回、西日本公式第23回ADL評価法FIM講習会を受講しましたので、その参加報告および所感を以下に述べさせていただきます。

私自身は初期研修とその後の脳神経外科での勤務を経て兵庫医科大学リハビリテーション科へ入局した身ですが、リハビリテーション科に入局するまでADLの評価は「自立かそうでないか」程度に大雑把に行っていました。しかし、リハビリテーション科では他の身体診療科よりもより密接に患者さんの生活の場に関与するため、ADLの評価はより詳細に行う必要があります。今回の講習のテーマであるFIMは「Functional Independence Measure」の英語の略であり、運動13項目、認知5項目の合計18項目でADLを定量的に評価可能な指標です。昨年4月からリハビリテーション科での仕事を開始してから書籍や実際の症例を通して学んできましたが、評価そのものは療法士が行うのが基本であったため、今ひとつ評価のイメージが付きにくいという

実情がありました。その中で今回の講習会を受講する機会をいただき、FIMを基本から見直すことができたと実感しております。講習の中では運動・認知の各項目の評価における重要なポイントや基準の分かりやすい解説とともに実際の評価場面の動画の提示もあり、評価のイメージが頭に残りやすい講習であったと感じました。FIMの推移や予測は患者さんの家族との面談の場で提示しつつ、その数字を一つの材料として説明することがしばしばありますが、今回の講習を経ることでこれまでよりも数値に実際のイメージを付加して説明することがより可能になるのではないかと思います。また、自分自身で診察を行う際にも患者さんの様子を見ながら可能な範囲でADLの目安を付ける技術にも活かしていきたいと考えています。

最後にこのような貴重な講演会を受講させて頂いたCRASEEDの皆様に感謝を申し上げて結びといたします。

みどりヶ丘病院 末廣 貴史

呼吸理学療法実践セミナー

2023年2月11日、12日に「呼吸理学療法実践セミナー」に参加しました。2日間にわたる開催でしたが、「呼吸リハビリテーション」という広く深い領域を凝縮して学ぶことができる大変貴重な機会でした。

初日は血液ガス所見や呼吸生理学、呼吸に関与する筋骨格系の解剖学といった基礎的な内容を、2日目は急性期・慢性期の呼吸理学療法に関する2つの講義と呼吸助法の実技を動画で学びました。どれも非常にためになる講義だったのですが、ICUなどの超急性期領域での呼吸リハビリテーションは私の興味のある分野の一つなので、今回は2日目に行われた「急性期の呼吸理学療法」の講義を中心にお伝えします。初めに体位ドレナージや排痰法といった、呼吸リハビリテーションでよく行われている手技を先行研究の知見を添えながら教えていただき、その後で抜管後や周術期の呼吸リハビリテーションの実際を写真付きの具体例やエビデンスを交えながら話していただきました。そしてICU-AWやHAD/HAFDなどの入院によって引き起こされる

ADLや身体機能の低下に関する概念とそのマネジメントといった最近のトピックスを教わりました。HAD/HAFDのマネジメントを教わっている時には呼吸リハビリテーションを行うに当たって、栄養や精神状態といった呼吸以外の要素をマネジメントすることの重要性に気付くことができました。リハビリテーション科は人をみる診療科であるということは意識しているつもりでしたが、超急性期のリハビリテーション領域においてもトータルケアが求められており、呼吸の知識を深めるだけではなく、栄養管理や精神ケア、そしてそれを行うことができるチーム作りといった多角的な医療が必要であることを痛感しました。そういった医療を今後自分が実践していけるように勉強を続けていこうと感じました。

今回はオンライン開催でしたが、実技を学ぶには現地開催に勝るものはないと思うので現地で開催される際にはぜひまた参加してみたいと思います。

兵庫医科大学病院 宮本 康平



森沢 知之 講師

眞淵 敏 講師

笹沼 直樹 講師

The 12th World Congress for Neurorehabilitation in Wien

第12回ニューロリハビリテーション世界会議

2022年12月14日～17日 ウィーン(オーストリア)



2022年12月14日～17日までウィーン(オーストリア)で開催された12th World Congress of Neurorehabilitation(第12回ニューロリハビリテーション世界会議)に参加してきました。世界的にはすでに新型コロナウイルス感染症の影響も収束しつつあり、航空機への搭乗に際してワクチンの3回接種証明は必要でしたが、オーストリアの入国自体は全く制限されませんでした。

現地は時期的に氷点下になるほど気温が低く、ダウンなどで全身を包み込んで外出しないと凍えるほどの寒さでした。しかし非常にラッキーだったのが、時期的にクリスマスマーケットが開催されていたことです。日本でいえば屋台のような店が街中の公園や広場に設置され、夜になると色鮮やかなイルミネーションとともに様々な食べ物や



(クリスマスマーケットにて) 現地観光も国際学会参加の醍醐味のひとつです

飾りなど(主にハンドメイド)が売られていました。学会の合間には、美術館を訪れたり(ベルヴェデーレ宮殿のグスタフ・クリムト作「接吻」やジャック・ルイ・ダヴィット作「サン・ベルナル峠を越えるナポレオン」が有名)、ウィーンの伝統料理に舌鼓を打った後はホットワインとともにクリスマスの街の雰囲気を楽しんだりして過ごしました。特にウィーンの銘菓ザッハートルテ(ホテル・ザッハーがオリジナル)を本場で味わうことが

きたのは、貴重な経験になりました(ホテル・ザッハーのザッハートルテは海外便で日本にお取り寄せも可能のようですが、送料がかなりかかります)。

さて学会に関しては、私は「Impact of Repeated Treatment by Modified Constraint-Induced Movement Therapy Combined with Robotic Training in A Chronic Stroke Patient with Severe Upper Limb Paralysis」という演題名でオーラルセッションに臨みました。英語でのプレゼンテーションは難しく緊張しますが、海外の参加者と議論すると非常に新鮮です。今回の学会はハイブリッド形式で開催されていたこともあり、現地参加者はそれほど多くありませんでしたが、同様のテーマのセッションでは活発な議論が繰り広げられていました。

最後に今回参加したWorld Congress of Neurorehabilitationに関して少し触れておきたいと思います。

この学会はThe World Federation for NeuroRehabilitation(WFNR)の国際会議として2年に一度開催され、世界的なニューロリハビリテーションの専門家が集います。一方、日本ニューロリハビリテーション学会(Japanese Society for Neural Repair and Neurorehabilitation)はこのWFNRのnational societyとして2010年に設立されています。次回の学会は2024年5月22日～25日にバンクーバー(カナダ)で開催されますので、ぜひみなさま参加をご検討されてはいかがでしょうか。

兵庫医科大学病院 内山 侑紀

オンライン セミナー

脳卒中予後予測セミナー

【日 時】2023年11月11日(土)10時～16時
【受講料】8,000円

実践CI療法講習会

【日 時】2023年11月18日(土)10時～16時
【受講料】8,000円

脳卒中下肢装具療法セミナー

【日 時】2024年2月10日(土)10時～16時
【受講料】8,000円

西日本公式第24回 「ADL評価法FIM講習会」

【日 時】2024年2月11日(日)
午前の部:9時～12時/午後の部:13時～16時
【受講料】6,000円(午前の部と午後の部は同じ内容です)

現地開催

待望の現地開催がついに復活。
実技を直接目で学べます!

呼吸理学療法実践セミナー

【日 時】1日目:2024年2月23日(金・祝)10時～16時 午前:講義/午後:実技演習
2日目:2024年2月24日(土)10時～16時 午前:講義/午後:実技演習
【会 場】兵庫医科大学 【受講料】各日15,000円/両日27,000円